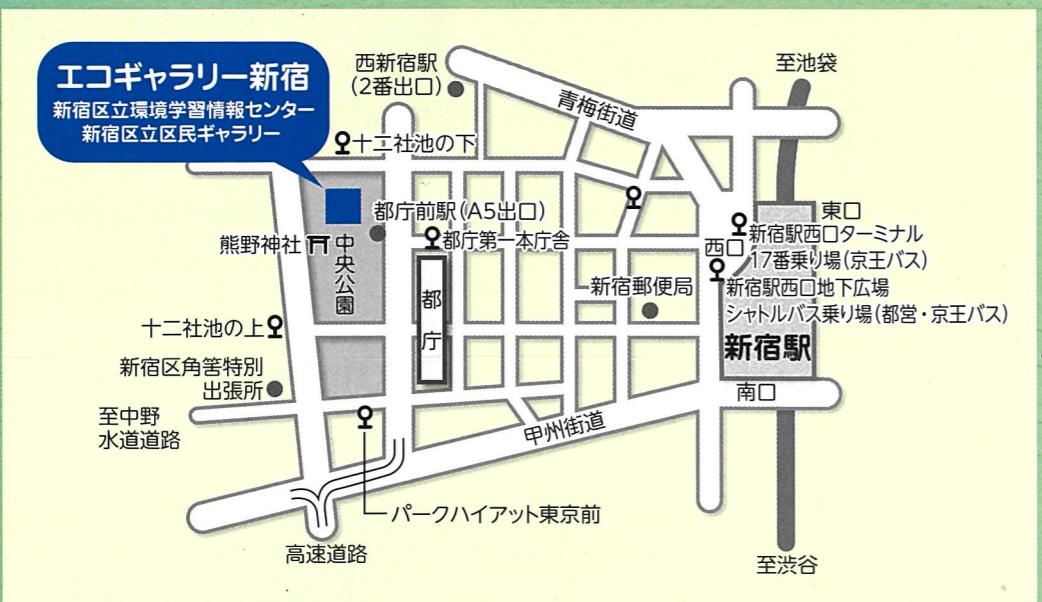


えこようび



エコギャラリー新宿（新宿区立環境学習情報センター・区民ギャラリー）

開館時間：10:00～21:00（区民ギャラリーは、10:00～18:00）
 休館日：毎月第4月曜日・年末年始（12/29～1/3）第4月曜日が祝日の場合はその翌日
 住所：〒160-0023 新宿区西新宿2-11-4 新宿中央公園内
 TEL 03-3348-6277 FAX 03-3344-4434
 E-mail : info@shinjuku-ecocenter.jp
 WEB : <https://www.shinjuku-ecocenter.jp/>



- 徒歩 新宿駅西口より約15分
- バス 新宿駅西口ターミナル17番乗り場
■宿32【佼成会聖堂前】行き「十二社池の下」より徒歩1分
■宿33【永福町】行き「十二社池の下」より徒歩1分
新宿駅西口地下広場シャトルバス乗り場
■CH01（循環）【都庁舎】行き「都庁第一本庁舎」より徒歩7分
大江戸線「都庁前」駅A5番出口より徒歩5分
丸の内線「西新宿」駅2番出口より徒歩10分
- 地下鉄

えこようび VOL.10 編集・発行：エコギャラリー新宿 編集長：高間佳子 2022年3月発行

※この冊子は再生紙を使用しています。

エコギャラリー新宿
まるごとエコ Book

えこようび

新宿区は
ゼロカーボンシティを
目指します

VOL.
10

P.2-3 ゼロカーボンシティ新宿の実現に向けて

P.4-5 わたしたちのゼロカーボンアクション

～環境絵画とみどりのかーテン報告書より～

P.6 新宿エコワン・グランプリ第14・15回受賞者紹介

P.7 エコギャラリー新宿の情報



新宿区は2050年ゼロカーボンシティの実現に向けて取り組むことを表明しました。



新宿区は「2050年のゼロカーボンシティ実現に取組む」と表明。
「ゼロカーボンシティって何?」新宿区環境対策課の向課長に伺いました。



ゼロカーボンって何?

Q 2021年(令和3年)6月5日「環境の日」に、なぜゼロカーボンシティ表明をしたのですか。

A 2018年のIPCC特別報告書に「世界の気温上昇を1.5度に抑えるためには、2050年までにカーボンニュートラル達成を」という趣旨の記述があります。この世界的な流れを踏まえて日本も、2020年10月に当時の菅首相が国会の所信表明演説で、2050年にカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すと宣言をしました。当然新宿区も、何か行動を起こさなければならないと考えたことが、一つのきっかけです。

新宿駅は1日の乗降客数が約350万人で、これは世界一です。区役所をはじめ、オフィスビル等も多く、当然CO₂も沢山排出していく、2018年度は約270万トン。新宿区がゼロカーボンシティをめざす意義は大きいと考えています。

Q 新宿区全体で270万トンものCO₂排出量を、どう削減するのでしょうか。

A 数字からアプローチすると、排出量全体の6割が業務部門のオフィスビルや事業所からです。家庭部門が2割、残り2割が産業・運輸・廃棄物部門で、圧倒的に業務部門が多いのが新宿の特徴です。

この業務部門CO₂排出量の、約8割が電力由来です。区全体のCO₂排出量の約半分は事業者の電力から、ということです。区役所を含め、事業所で使う電気を、再生可能エネルギーなどから発電した電気に切り替えていただくのがポイントだと考えています。

Q なんと、約半分は事業所の電気から! 再エネ電気への切り替えなど、熱心な取り組みが区民にも伝われば、みんなで応援できますね。ところで、区役所はどう取り組んでいるのか教えてください。参考になります。

A 2020(令和2)年8月にはエコギャラリー新宿で再エネ100%電力へ切り替え、年間約40トン削減。これをきっかけに、2021年4月から新宿清掃事務所も切り替えて280トンを削減しました。2022年度は、10カ所の特別出張所や新宿文化センター、コズミックセンターなど、区有施設22カ所を一気にゼロカーボン電力等へ切り替え、4900トンの削減を目指します。これは区有施設全ての排出量の約2割に相当します。2023年度以降も着実に推進していきます。

電気の切り替えを進めていますが、値段は変わっていません。

なお、区役所のCO₂排出量は、電力が6割、ガスが3割、残り1割がガソリンなどです。ガス会社もCO₂を排出しないガスの開発を進めており、将来は購入するガスの切り替えも検討します。

1割にあたるガソリン等の削減に向けて、庁用車を徐々にEV車等にして、ゼロカーボン電力に切り替えた電気で庁用車を充電できるようにしていきたいと考えています。



で12件の登録があり、契約済みは2件です。CO₂の削減だけではなく、環境と経済の好循環もテーマです。「ゼロカーボン電力に切り替えたら安くなった」「企業イメージも良くなった」という付加価値も大事だと思います。

Q 区民への呼びかけも、まず「電力の切り替えから」です。

A 区民の皆様が自分でできることとして、みどりのカーテンを育てたり、日々の節電やマイボトルを使っていただくなどは素晴らしいことです。

その上で、CO₂を出すのは電気の割合が多いということも、知りいただけるようにする普及啓発が大事だと思います。

東京都地球温暖化防止活動推進センターがウェブで公開している「東京ソーラー屋根台帳」では、どの建物が太陽光発電に適しているかわかります。また、東京都が呼びかける「みい電」などもあり、これらを活用する方が増えることを期待しています。

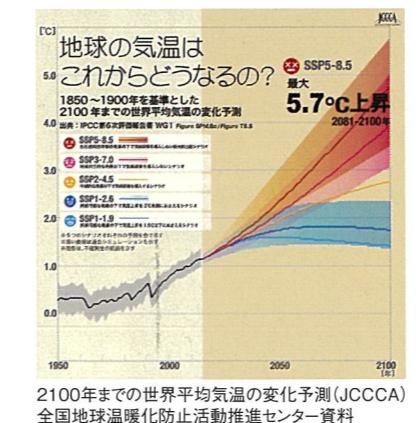
区民や事業者の皆さんのゼロカーボン電気への切り替えを、環境学習・活動拠点としてエコギャラリー新宿も応援していきます。向課長、ありがとうございました。

Q 事業者に広めたい「新宿再エネオークション」とは何ですか。

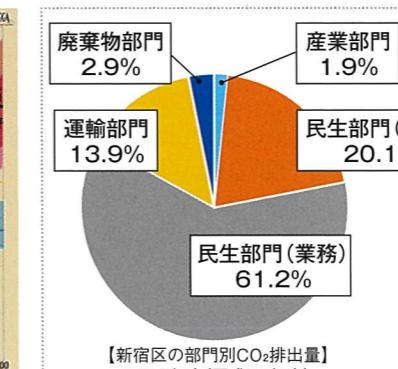
A 再エネ電力を推奨するため、区は「新宿再エネオークション」を開始しました。

事業者の皆さんのが電力の切り替えには3つの壁があると言われています。「価格が高い」「切り替えの事務手続きが煩雑」そして「信用」です。そこで、価格をオークション形式で競り下げて今より安い電力を調達できるようにします。登録手続きは6項目を入力するだけで完了でき、信用については区が運営者と協定を結ぶことによって安心していただく仕組みです。

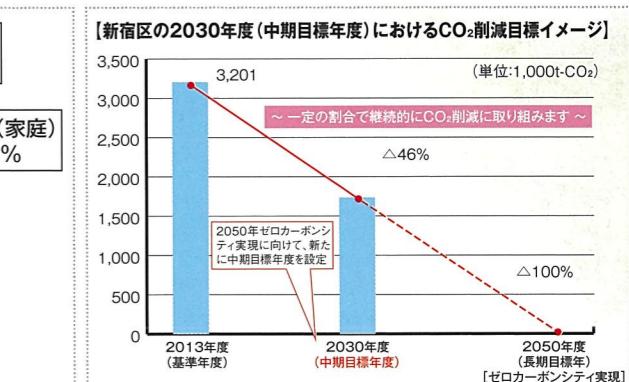
法人・個人事業者を対象に2021年9月から開始し、現時点



2100年までの世界平均気温の変化予測(JCCC)
全国地球温暖化防止活動推進センター資料



【新宿区の部門別CO₂排出量】
2018年度(平成30年度)



新宿区第三次環境基本計画(改訂版)骨子案より

あなたが区内に住んでいたら?

東京ソーラー屋根台帳

東京都地球温暖化防止活動推進センターが公開しているウェブサイトです。都内にある各建物がどのくらい太陽光発電システムに適しているのか目で分かります。自分の家や建物をチェックして、太陽光発電システムの導入可能性を検討してみてください。

<https://tokyosolar.netmap.jp/map/>

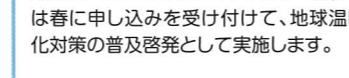
みい電

首都圏の10都県市が家庭等を対象に連携して呼びかける、太陽光発電など自然の電気の共同購入制度。電気代約9%削減の実績があります。直近のキャンペーンは2022年1月まででしたが、次の呼びかけの際はぜひ注目を。



みどりのカーテン

夏の冷房を控えながら気持ちよく過ごせるよう、ゴーヤーなどつる性植物を窓の外に育てて日差しを和らげる、自然のカーテンです。エコギャラリー新宿では春に申し込みを受け付けて、地球温暖化対策の普及啓発として実施します。



今、私たちに できることは?

新宿再エネオークション

環境省が推奨する電力オークション「エネオク」を活用し、区内の法人や個人事業主を対象にオンラインによる再エネ電力への切り替えを推進するプロジェクト。区役所と(株)エナバングが連携協定を結び、活用しやすくしています。



あなたが事業者なら?

新工エネルギー及び省エネルギー機器等導入補助金

区内の事業所に太陽光発電システムもしくはLED照明を設置する場合の費用の一部を補助。2022年度は予算を増額し、例えばLED設置助成は年間40件、一件当たりの補助限度額は50万円の予定です。



新宿区工事事業者連絡会

区内で事業活動を進める事業者の環境活動情報交換の場として、先進的な事例発表や見学会を開催。区が事務局を務め、会員は随時募集しています。



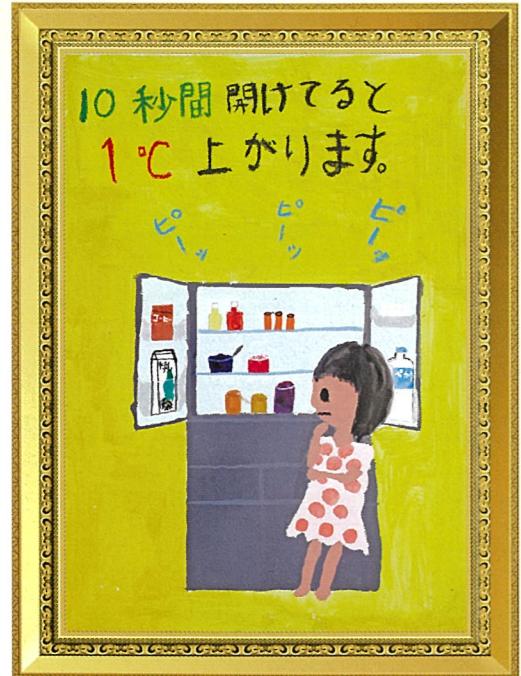
新宿区こども環境絵画コンテスト

「新宿区こども環境絵画コンテスト」は、次世代を担う子どもたちが環境絵画に取り組むことを通じて、グローバルな地球環境や新宿区の理想的な環境について考え、表現するきっかけにしてもらうことを目指す環境教育プロジェクトです。コンテスト開始からこれまでの16年間で、延べ5,304名の子どもたちと、そのご家族に参加していただきました。

過去の受賞作品の中から、「ゼロカーボン」「脱炭素」に関する素敵なお絵かきを紹介します。子どもたちとそのご家族がそれぞれの作品に込めた想いやメッセージをお受け取りください。

『10秒開けてると1℃上がります。』

絵のテーマは節電。テレビで10秒間冷蔵庫を開け放しにすると1℃上がることを知って、みんなに教えてあげたかった。



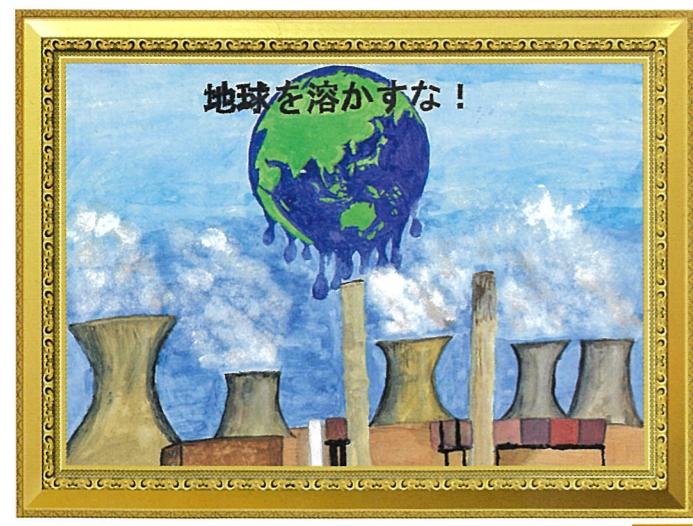
『育てよう！エコするキモチ』

自然環境を大切に考えて作られた製品には、環境ラベルというマークが付いています。今回、家の中にあった製品に付いていた環境ラベルをお母さんと一緒に探し出し、たくさんの人に地球に優しい製品を使ってもらいたいと思い、この絵を描きました。



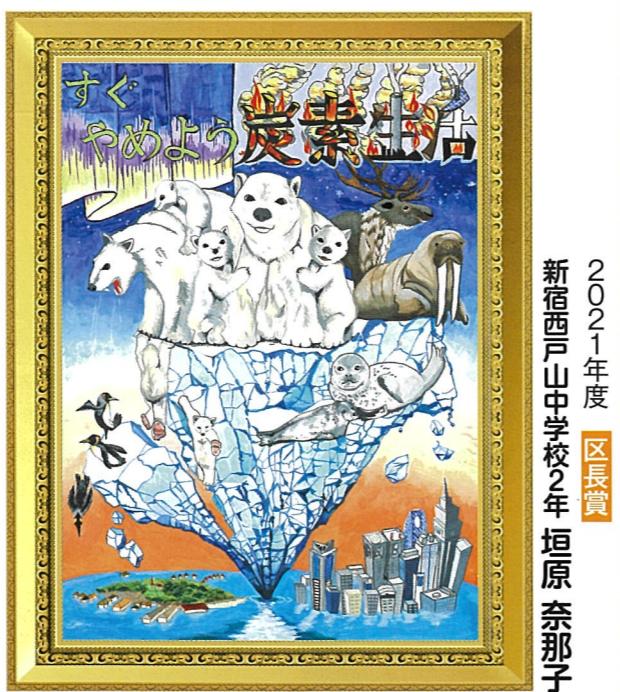
『地球を溶かすな！』

皆さんに地球が今、大変な状況にあることを知つてもらうために描きました。これを通して、皆さんに地球が今、どの様な状況にあるのかを知つてもらえると嬉しいです。また、自分も今の地球の状況を改善したいです。



『すぐやめよう 炭素生活』

今年は、お盆に梅雨末期のような豪雨になり、地球環境の変化を感じています。このため、すぐに炭素を燃やす生活を再生可能エネルギーに切り替える必要があり、私の身近な変化が大好きななぐまに影響していることも心配であるため、絵に表現しました。



新宿「みどりのカーテン」プロジェクト

新宿区内に「みどりのカーテン(ゴーヤー)」をひろげようというプロジェクトで、地球温暖化防止対策に向けた区民の取組の一つとして2008年にはじまりました。夏場のエアコン使用を控えて、CO₂削減を目指します。「みどりのカーテン」の普及を進めるプロジェクトの目的が「東京2020大会における市民によるCO₂削減・吸収活動」の趣旨と一致していることから、東京2020公認プログラムとして認証されました。このプロジェクトによるCO₂の削減・吸収量は120.3t-CO₂でした。

参加者のみなさんから送られた、みどりのカーテン育成の楽しさにあふれる「生育記録シート」をご紹介します。

各記録シートには、栽培者の方の名前（たるあんドリアンさん、マット・ブラックさん、高田馬場地域交流館、ひよこさん、ちいっちゃん、ケイジーゼさん、ジボさん）と、栽培の手順、成長記録、収穫された野菜の写真などが記載されています。

第14・15回 新宿エコワーグランプリ

部門大賞・環境にやさしい事業者大賞 取組紹介

地球温暖化防止・省資源・ごみの減量化・リサイクル・自然保護・みどりや水辺の創出など、環境にやさしい家庭、地域、企業の活動で、他の参考となる優れた取組を募集するコンテストです。今号では第14・15回(2020・2021年度)の大賞についてご紹介します。

第14回 個人・ファミリー部門 大賞 井上 泰雅さん

エコギャラリー新宿での環境活動 ～こどもエコクラブ・環境絵画を通じた取組～



エコギャラリー新宿を拠点に区内の小学生が参加することもエコ広場新宿の活動を支える「中高生スタッフ」に参加し、3年間で計18回の活動に携わりました。新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン活動が続く中、「どうしたら小学生が楽しく活動し、身近なエコについて考え、深めることができるのは？」を意識しながらサポートを行いました。

夏休みには、中高生スタッフとともに夏休みこどもエコ講座「エコにトライ!」のボランティアスタッフとして活動を行いました。

中学校3年間を通じて毎年「環境絵画」を取り組み、「新宿区こども環境絵画コンテスト」に応募してきました。自身の環境意識を高め、3年連続で入賞させていただきました。

第15回 個人・ファミリー部門 大賞 前田 ゆきさん

「さんぽ×ごみひろい」のイベント開催

戸山公園内のごみが、他の公園に比べて多く感じたことから、2021年8月に家族4人で1時間、戸山公園箱根山地区のごみを拾いました。そして、どこに、どのようなごみがどのくらいあるのかをまとめました。拾ったごみを活用したアート作品「ごみを食べてくれるスッポン」(子どもと共作)を作り、小学校の自由研究として提出しました。

この日をきっかけとして、「さんぽを楽しみながら、ついでにごみを拾う」をコンセプトにした「さんぽ×ごみひろい」のイベントを2021年11月に企画・実施。自分たち家族を含め27名の参加がありました。参加者の多くは家族連れで、ごみ拾い自体を宝がしのような感覚で楽しんでくださったようです。今後は、年2回を目標に、自治会との協働で、地域の方々と交流しながら、自然に触れ、地球環境についても考えられるような活動を行っていきたいと思います。



第14回 グループ部門 大賞 西新宿子ども食堂

食品ロスを減らし、地域の子どもたちへ「食」の支援をする

困窮家庭や子どもの養育環境など、身近な課題解決に向けて働きかけることを目的として、貧困家庭、ひとり親家庭、社会的弱者に寄り添い、「食」を通じて、子どもたちや子育て家庭を支える活動をしています。

地域の方々からいただく家庭で余る調味料やお米、企業の方から提供いただく無農薬野菜、賞味期限の近いお菓子やレトルト食品等も活用し、地域の子どもたち、保護者や子育て家庭の親子へ、食事を提供しています。地域の大人と一緒に食事をすることで、子どもたちは食事の楽しさを知り、人との触れ合いから、優しさやいたわりなどの感情が豊かになってきていることを感じます。また、保護者にとっても悩み等を気軽に相談できる安らぎの場になっています。



第14回 環境に優しい事業者大賞 法政大学環境センター

「行動バイアス」をのりこえて、えこびよんと、健康的に、地球環境問題解決を目指した「法政大学の掟」

法政大学環境センターでは、地球環境問題の解決の妨げとなる「行動バイアス」を踏まえ、学生・教職員の「心構え」や「守らなければならない決まり」を「えこびよん」から伝授する「法政大学の掟」を定めています。このように、学生が楽しくながら取り組めるよう制度設計を工夫し、健康的かつ主体的に地球環境問題解決を目指した環境保全活動を展開しています。具体的には、紙資源削減や廃棄物削減に向けた分別、健康的な節電キャンパスライフ等を促し、行動変容を図っています。

健康的に地球環境問題の解決を目指して「1人1人」の「行動」に「情報的介入」することを試み、健康的に環境配慮型へと「行動変容」させることを目指した地道で斬新な取組を続けています。

第15回 グループ部門 大賞 そらとだいちの図書館ボランティア

「もったいない海洋汚染」に気づいてマイエコバッグ作り～熊谷組の環境出前授業～



「そらとだいちの図書館ボランティア」は、新宿区中央図書館旧校庭部分のパブリックスペース活用として、地域の賑わいや緩やかなつながりをつくり出すことを目的とし、令和3年2月から活動しています。「みんなの居場所と出番がある」を合言葉に、図書館利用者や住民に対して自然体験や環境学習の場を提供しています。

校庭部分の活用は「菜園広場」「クローバー広場」の2つのエリアで展開されます。菜園広場は無農薬野菜の栽培のための畑作り、苗植え、収穫等の農作業体験、コンポストによる堆肥づくりを住民参加型の活動として行います。広い校庭を活かした菜園での野菜や花の栽培は緑化推進や生物の多機能性を生み、様々な虫や鳥の来訪も増えることから幼児や子どもたちにとって環境学習や調べものの中の学習の最良の環境になっています。

「クローバー広場」では環境学習や自然観察(調べもの学習)、絵本の読み聞かせ、本の展示やリユース交換会が展開されます。

『えこようび』バックナンバーのお知らせ

えこようびVOL.1～VOL.10の記事はエコギャラリー新宿ホームページより読むことができます。
最新のイベントや情報も詳しく掲載していますので、エコギャラリー新宿のホームページをチェックしてみましょう。



詳しくは
こちらで



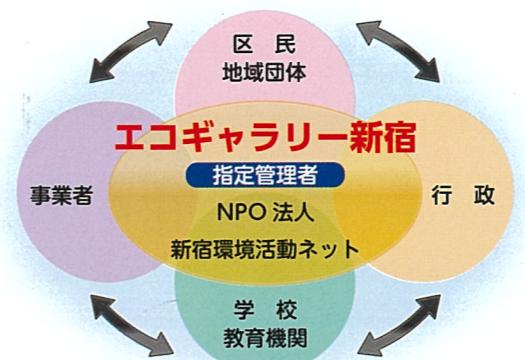
<https://www.shinjuku-ecocenter.jp/>

エコギャラリー新宿とは

都会の森「新宿中央公園」にある「エコギャラリー新宿」は、1階に文化活動の発表の場「区民ギャラリー」、2階に環境情報・活動の拠点「環境学習情報センター」を併せた新宿区の複合施設です。

気候変動対策、資源の効率的な活用、自然共生などの環境課題はもちろん、環境・経済・社会・文化を統合した「文化の薫り高き持続可能な環境都市 新宿」の実現に向け、区民・NPO・事業者・行政・教育機関をつなぐ交流拠点として、企画・運営の段階からマルチセクター(多様な主体)の参画も得ながら運営しています。

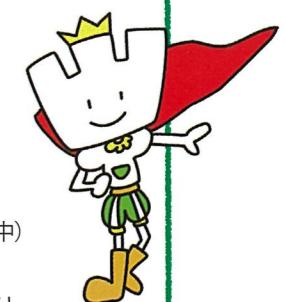
※2004年4月より、公募による選定を経て、NPO法人新宿環境活動ネットが指定管理者として管理運営しています。



エコギャラリー新宿

イメージキャラクター

エコ王子



名前: エコ王子
出身: エコギャラリー新宿
特技: 空を飛ぶこと
エコ上手 (日々勉強中)
マイブーム: エコバッグ
木のペンダントづくり